

セマンティックなサービスの 事例のご紹介

2009年1月9日

湯本正典(日立システム)
加藤晶子(IT Frontier)
亀山悦治(ナレッジワークス)

セマンティックとは？

Semantic: W3Cで定義されたもの

semantic: 広くメタデータ等を利用したもの

semantic technology: 情報の意味や関連性等を理解し、
それに基づいて処理を行うもの

semantic service: semantic technologyを利用したサービス

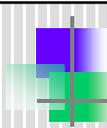
ひとまずの日本語訳？

Semantic: セマンティック

semantic: セマンティックな

semantic technology: セマンティックな技術

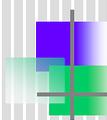
semantic service: セマンティックなサービス



セマンティックなサービスの事例



1. semanticではないけれど・・・日本語のサイト
・ 「kizasi」(兆し) 調査担当:湯本
2. Semanticの本命といわれているサイト
・ 「Twine」 調査担当:湯本
3. Semanticの技術をブロッガー向けに提供するサイト
・ 「Zemanta」 調査担当:亀山
4. オントロジー技術を用いたレストラン検索サイト
・ 「BooRah」 調査担当:加藤



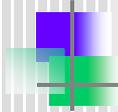
1. kizasi (兆し)



semanticではないけれど・・・
semanticらしさを感じるサイト

URL <http://kizasi.jp/>

株式会社 きざしカンパニー



kizasi

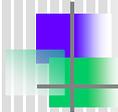


概要:

- ・ブログを解析して、いま何が流行っているか、10分ごとに更新する。
- ・「時系列共起パターン検索エンジン」
時間情報を持ったテキストデータを収集して解析する。

所感:

- ・ブログの中の情報をあたかも理解しているかのようにして情報を抽出しているように感じる。将来はsemanticに対応する可能性あり。



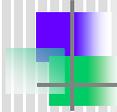
2. Twine



Semanticの本命といわれているが・・・?

URL <http://www.twine.com/>

米国 Radar Networks



Twine

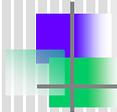


概要:

- ・一般Webユーザ向けの知識管理ツール。個人専用のホームページが与えられ、情報を取り込み整理できる。
- ・Semantic Webの技術(タグの自動付与)を用いている。

所感:

- ・ユーザからは、Semantic Webを利用しているということ意識的に感じない。
- ・Twineだから(Semanticだから)提供できたサービスは何?というとき、まだその特色は発揮できていないと感じる。



3. Zemanta



Semanticの技術をブロッガー向けに提供
ブログの記事を書いている最中に関連
情報を自動抽出 & 表示

URL <http://www.Zemanta.com/>

英国 Zemanta Ltd.

Zemanta(1)

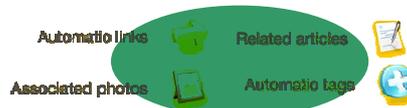


概要:

・ブログの記事を書きながら様々なサイトから関連情報(写真、文字情報)を自動抽出し画面表示する。その情報をブロガーが容易に利用することができる。

・写真は、Flickr等から二次利用が許諾されているもののみ表示、文字情報は自分が書いているブログの特定の箇所と容易にリンクをはることができる。

・Plug-inによりブラウザで利用可能。別途APIも提供されている。



Zemanta(2)

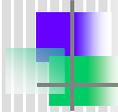


所感:

・Zemantaサイトでは、何が出来るかが明確に示されている。プログラマー向けのツールであるため実用的だと思う。Semantic Webを利用しているということがはっきりと意識されるのではないか。

・Zemantaサイトは、Wikipedia, Blogger, MovableTypeなど特定の有名なブログツール・サイトを対象としているが、日本語に対応されていないことは残念。

・Zemanta-APIを利用した幾つかのサイトが既に公開されており、Semantic Webを実現する基盤を提供影響度は大きいと感じる。



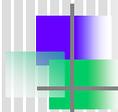
4. BooRah



米国のレストラン検索サイト。
独自のオントロジー技術を用い、様々な
ブログサイトから店名・場所・メニュー・
平均価格や評価を抽出しランキング。

URL <http://www.boorah.com/>

米国 Boorah Inc.



BooRah (1)

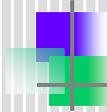


概要:

・様々なブログをクロールしレストランの情報を抽出。
結果は独自のオントロジー技術により、店舗名・所在地・平均
価格等の店舗情報、メニューリスト、顧客の評価(味、サービス、
環境)に分類登録されていく。

・SNSとしての機能も持ち、会員は既に登録・評価されている
店舗に対し、「Boo」、「Rah」の評価とタグを加えていくことが
可能。

・BooRahの提供するAPIは会社での利用も可能。機能として
は、掲載されている格付けやメニュー情報の提供の他、割引
クーポンへのリンクなどがある。携帯機での使用を想定してい
る様子。

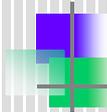


BooRah (2)



所感:

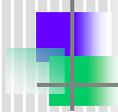
- ・初見では、BooRahは一般的なレストラン格付けサイトと見えた。しかし「評価サイトによる評価」と「ブログに書かれている評価」を一覧で表示するスタンスは新鮮。
- ・店舗登録はブログをクローリングすることで行われるため、隠れた名店を見つけるのに有効と感じる。
- ・残念に思う点は、情報収集の段階ではオントロジー技術を使用しているにも関わらず、サイト内の検索機能は従来通りの検索機能を用いていること。今後の検索機能の充実に期待したい。



まとめ



- ・Semantic Webを用いたサービスは徐々に充実してきている。
- ・また、semanticなサイトも増えている。
- ・ただし、英語圏のサービスが多く、日本語に対応しているサイトは、ほとんどない。
今後、日本語のサイトが増えていくのか？
日本語特有の研究が必要。



ご清聴ありがとうございました。

Web2.0部会

湯本正典(日立システム)

加藤晶子(IT Frontier)

亀山悦治(ナレッジワークス)